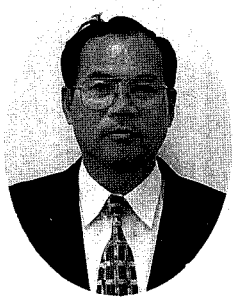
ecologist ecologist ecologist

えころじすと

第４号

発行日
1997年11月21日
発行人
米子地区環境問題を考える
企業懇話会 編集委員会
(用紙寄贈)王子製紙㈱米子工場

ごあいさつ



米子地区環境問題を考える会副会長
ナショナルマイクロモータ㈱　人事部長
伊佐地松美

地球温暖化やオゾン層の破壊、廃棄物の増大などに代表される地球環境問題は、21世紀の社会にとって大変深刻で大きな課題となっています。

企業にとっては、製品のリサイクル化や省資源・省エネルギーへの取り組みなど「地球環境と共存」する経営活動が企業存続の必須条件となっております。

現在、当社は地球環境の保全と地域社会との共生を目指した環境マネージメントシステムの構築を目指した取り組み（ＩＳＯ１４００１取得）を全社活動として推進しております。

しかしながら、住み良い生活環境を築くためには、一企業の枠を超えて企業間でのお互いの情報交換を行うとともに協働して課題解決をはかっていくことが、不可欠になっております。

特に、米子地域は豊かな自然に恵まれており、この素晴しい自然の恩恵を受けて生活をしている私たちは、現状の自然を大切にして次世代に伝えていく責任があると思います。

平成８年４月に発足した「米子地区環境問題を考える企業懇話会」の活動も会員企業の皆様方のご協力と行政の皆様方のご支援により会員企業も拡大してまいりました。

活動内容は、各企業の環境に関する情報交換、皆生海岸美化清掃活動、環境研修会の企画やグラウンドワーク活動の推進など地道ながら着実に定着し、米子地区の企業間の連携と相互啓発の場へと広がるとともに、「企業・行政・住民とが共生する環境活動」へと大きく拡大してきています。

企業懇話会の活動の輪が、更に大きく広がり、一企業や一市民の環境活動から地球的規模での環境活動へと、米子地区から全国に発進していける活動になることを望んでおります。

米子水鳥公園清掃美化ボランティア活動の実施について

１　日　時／11月24日
　　9時～10時
２　場　所／米子水鳥公園周辺
３　集合場所／米子水鳥公園駐車場
（※駐車場は300ｍ離れた粟島神社も使用可）
４　備考：参加人員を事務局まで連絡ください
FAX／0859－27－9990
締切り／10月20日
※小雨決行
※軍手等は、各企業でご準備下さい
※ゴミ袋は米子市役所で準備いたします

平成九年度 米子市ふれあい健康フェスティバル事業 日本グラウンドワーク協会事務局長 渡辺　豊博氏　講演会開催

さる十月二十六日午後三時より米子ふれあいの里において、当会と米子市主催で日本グラウンドワーク協会事務局長渡辺豊博氏の講演会を開催しました。

テーマは「これからの環境活動とは」グラウンドワーク活動とは」で、約二時間。各地の実践例等を折まぜ、大変興味深い講演となりました。

会場には当会会員企業の方を中心に約三百名の入場をいただき、盛況のうちに終了いたしました。たくさん参加いただき、誠にありがとうございました。

渡辺事務局長より寄稿していただきましたのでご紹介いたします。

◆◆◆◆◆特別寄稿◆◆◆◆◆

「環境づくり・一人一人が皆主役」

財団法人日本グラウンドワーク協会事務局長　渡辺豊博

皆さんは川や道にゴミや空き缶が捨てられていたらどうしますか。汚れた川や草だらけの公園を見たらどう感じますか。多分、ほとんどの人が行政の怠慢だ、捨てる人のモラルの低さが問題だと他人事として片付けてしまっていませんか。まさに、この考え方が今の日本人の環境に対する意識を象徴していると思います。問題がおこれば行政や企業の責任に転嫁する。個々の人間が最大の環境悪化の加害者なのに、まるで被害者のふり。他人依存が激しすぎるのです。

豊かで美しい川や湖、森、干潟など先人から引き継いだ地域の宝物も傷付いて価値を失いかけています。子供達の感性が磨かれ、感動、感激が味わえる実体験の場が無くなっています。水辺を乱舞したホタルの輝きはどこにいったのですか。川の中を自由に泳ぎ回ったドジョウやメダカは何故いなくなってしまったのですか。次代を担う子供達に私たちが引き継げる環境の贈り物として、何があるというのでしょうか。まさに、この50年の高度成長時代の経過の中で、先人が堂々と作り上げてきた豊かな自然環境を、食い尽くしてしまったのではないでしょうか。

貧しいながらも地域の人達が助け合い、寄り添い、協力し合ってきた日本独特の地域コミュニティも、自分勝手を優先する個人主義が蔓延して、隣の人の名前もわからない寂しい関係が出来上がってしまいました。まさに、人間と人間、人間と自然の共生関係が崩壊の危機に立ち至っているといえます。

日本を代表する富士山も、その美しさに隠された実態として、産業廃棄物の放棄、過剰観光客のゴミ・し尿の放置、地下水の枯渇　水質汚染、森林の荒廃、動植物の絶滅等、日本全国で発生している環境問題が凝縮されたといえる厳しい問題を抱え、まさに傷付き死を向かえようとしています。日本人は日本のシンボルで心の支えでもある富士山の環境すら守られない「環境遅進国」「環境収奪国」に成り下がったといえます。

21世紀は環境の時代といわれる今日、私たち一人一人が今までの行動を謙虚に反省し、その上で具体的に今後、各地域で何ができ、何をしていかなければならないか、真剣に考え、行動していかねばならない切迫した時期にきています。

その問題を解決するための有益な処方箋として、イギリスで成功している「グラウンドワーク運動」が一つの方向性を暗示しています。今までとかく対立し、バラバラに行動してきた市民・行政・企業の三者が、それぞれの役割と立場を認識して融合していく。地域の身近な環境に関わり、具体的な場を通して、それぞれが知恵とアイデアを出し、行動を起こし、汗を流す。この共同作業の中で、お互いを知り、協調・連携関係を作り上げていきます。日本に今も残る道普請やお祭りに似て、地域総参加の関係を再構築する運動といえます。

一人一人が川に飛び込みゴミを拾う勇気、空き地をスコップを持ってミニ公園にする行動力、米子を愛し誇る郷土愛、すべて同じだと思います。子供は親の背中を見て育ちます。グラウンドワーク運動は環境づくりの漢方薬です。一人一人の問題意識と具体的な行動で、次世代の子供達に誇れる美しい米子の環境づくりへの努力を継続して下さい。

高知グラウンドワーク活動視察

九月二十一日、グラウンドワーク活動先進地視察で高知市江ノ口川まつりを視察しました。会員より九名の参加をいただき、意義深い視察ができました。

「グラウンドワーク運動実践先進地（高知市）視察をして」

堀田石油株式会社　植田　建造

当初、高知市へはＪＲを利用するとのことであったが、米子市の末葭さんのご配慮で、車で視察することになった。

高知に着いてまず、中央公園に行き、いろいろな催しがあるのにびっくり、江ノ口川まつりには、子供達のプラカードがいっぱいあり目をひくものがあって、カメラにおさめる。江ノ口川のある城西公園まで、市民と一緒に行進をした。私はつい、カッパの面までつけ、子供にかえってしまっていた。

長官表彰を受賞するだけのことはあるまつりと、きれいな江ノ口川に感動しました。ゆっくりする時間もなくタクシーでグラウンドワークリーダー育成塾で公開講座に顔を出す。王子製紙の向井さん（パネラー）他の話を聞くこともできずに、次の懇親会に出席。江ノ口川うつくしいまちづくり市民会議、高知市の皆さんの環境美化活動のパワーに圧倒された。

次の日は、生態系保護協会の案内により、めだかトラストパーク視察で、町のど真ん中にあるパークを見て、自然や生き物を大切にする気持ちになった。私自身もめだかを育てており、いつかは、めだかの公園を作りたいと思っている。続いて、日高村の湿地帯、春野町二号地とまわり感動することばかりであった。

この視察を通し、地域住民と一つになり、環境をよくするためより一層努力したい。

「グラウンドワーク運動先進地を視察して」

日本通運㈱米子支店
王子製紙米子工場（事）　源光　康助

朝夕涼しくなりつつある9月21日に私達「米子地区環境問題を考える企業懇話会」のメンバー九名はグラウンドワーク先進地の高知市へ向け出発しました。

当日は高知市環境課大石係長、又「江ノ口川うつくしいまちづくり市民会議」の代表者の出迎えを受け、早速高知市内の中央公園から城西公園に向かって「江ノ口川浄化パレード」コースに参加させて頂きました。

大石係長の説明によりますと、パレードの主旨は地域環境美化の推進であり、「江ノ口川」は数年前までは悪臭のある汚い川であり、当時市民会議のメンバーは自分達の美しい豊かな「江ノ口川」に取り戻そうという意識が芽生えて来て、積極的に環境改善へと行動を起こされたとの説明であり、その考えは現在に至っておるとの事でした。

翌日には、高知県生態系保護協会の中村様の案内により、「高知めだかトラストパーク」及び「日高村グラウンドワーク」を視察しました。

視察いたし感じました事は、地域社会と行政、企業が一体となり身近な環境の改善運動に積極的に取り組んでおられると言う事です。

私たち「米子地区環境問題を考える企業懇話会」も地域において明るく住みよい生活環境を築くために行政と各企業の理解と協力のもとに地域市民の人達に寄与いたしたいと思うしだいです。

※この用紙は、回収された割り箸をリサイクルして王子製紙㈱米子工場で製造されたものです。

高知研修に参加して

「高知市のグラウンドワーク活動を視察して」

米子市環境課　三澤　充男

9月21日、全線開通した中四国横断道を通り高知市に到着、昼食後、江ノ口川まつりのオープニングパレードに参加した。

高知市内を流れる江ノ口川は、米子市内を流れる旧加茂川によく似ており、流域住民によって組織された「江ノ口川うつくしいまちづくり市民会議」により、清流復活を願って日頃より水質浄化活動及び流域沿線の緑化活動に取組まれている。

この「江ノ口川うつくしいまちづくり市民会議」は、昭和61年に流域67町内会により結成され、現在は132町内会が活動している。

江ノ口川の汚染源は、高知県の地場産業である工場廃液によるものであり、地場産業優遇か環境を守るのかとの論議の最中、昭和46年、かの有名な生コン投入事件（住民が専用排水路に生コンを投入）が発生したのである。昭和47年にこの大きな汚染の元凶は操業停止のため消えたが、今なお汚れた川の浄化のために多くの人手と費用が投じられている。

江ノ口川視察後の懇親会において、市民会議の年配の方々と酒盃を交わしながら、江ノ口川の浄化に取り組まれる熱意をひしひしとかんじると共にこのような江ノ口川における活動も、地域住民が主体となって行なう地域の環境改善、地域の活性化とまちづくりに取組む住民主体型のグラウンドワーク活動ではないかと感じられた。

翌日、高知県生態系保護協会の中村氏に「めだかトラスト1号地」、「めだかトラストパーク」及び日高村湿地帯を案内していただいた。

高知県生態系保護協会では、子供達が水辺の生物と触れ合うことのできる「水辺の生き物共和国」の実現を目指し、新しい環境復元型の市民運動を展開しており、「めだかトラスト」は人間の子供が生物の一員として育つ場所を作るためのトラスト運動であると聞いた。

実際に現地を見て中村氏の説明を聞きながら、草が生い茂る中を小川が流れ、川にはメダカが泳いでいる風景は過去に遊んだ場所そのものであり懐かしさえ覚えた。

「めだかとらすと1号地」は住民主導により、「めだかトラストパーク」は、「地元の住民と企業・行政」が協力して環境保全を行うグラウンドワーク方式であるがどちらの場合も整備・運営は地域住民が主体である。

いずれにしても、高知市においては地域住民がリーダーシップを取りながら成功しており、中村氏等の情熱を持った取組みには感動した。

現在、米子市では「企業主導」で行うグラウンドワーク方式で行っているが、今後は、住民参画型のグラウンドワークを模索すべきではないだろうか。

今回、貴重な体験をさせていただいたが、今後行政の一員として、また一住民として身近な環境をいかに見直し、自ら汗を流すのをいとわず地道に地域環境改善活動に努力したい。

グラウンドワーク視察を終えて

松下労組米子支部　松本　均

現在、都市化の進む中、昔あった自然もすこしずつ失われてきました。小川は、回りがコンクリートの壁に覆われ、野原や池は埋め立てられ宅地にされるなど、そこに住む小動物も少しづつ私たちの回りから姿を消していき、今では我々大人があたり前に知っている魚や小動物など、今の子供たちが知らないものが増えてきています。

そういう時代にこそ、もっと自然を大切にしみんなで守り、作り上げる活動であるグラウンドワークが必要であると感じました。

しかし、そのグラウンドワークも住民・企業・行政が一体となり活動してこそ成功することも学びましたが、グラウンドワーク先進地である高知も現在生態系保護協会が中心で一部の住民と企業しか活動が広がっていないと聞き難しさを感じました。そのような中で米子では企業懇話会が積極的に活動を進めようと努力しておられるので、リーダーシップを取ってもらい行政・住民、初めは社員のみなさんの理解と協力を得、視察地で学んだことを生かし、グラウンドワークの実践的な活動を根付かせていきたいと思います。

「グラウンドワーク先進地高知を視察して」

中国電力米子営業所　池淵　国明

9月21日早朝、米子市のマイクロバスで一路高知に向かった。岡山道の開通で高知まで4時間足らずでいくことができ大変便利になった。

高知県は、橋本知事が環境問題に非常に熱意をもっておられ、グラウンドワーク運動の大変な理解者であることから、県民も環境に対する取組みが進んでおり、グラウンドワーク運動の先進地ということで視察することとなった。

高知に到着し、まず「江ノ口川まつり」を見学した。これは、「江ノ口川うつくしいまちづくり市民会議」が主催で高知県と高知市・報道関係各社が後援で実施されているものであった。

この運動は、江ノ口川が工場の排水等で非常に汚れており、また、悪臭がひどかったため、流域の住民が立ち上がり浄化活動に取組んだのがはじまりで、毎年江ノ口川の清掃をしているとのことだった。現在は川の水も非常に澄んでおり、悪臭もなくコイやフナが泳いでいた。この地域環境美化活動の功績がたたえられ、「平成9年度環境庁長官表彰」を受賞されたそうだ。

開会式で会長さん・高知市長のあいさつがあり、メイン会場の城西公園までパレードがあり、皆がパレードに同行した。メイン会場の城西公園では、「パレードくじ」「プラカードコンテスト」等諸行事が賑やかに行なわれた。

その夜「市民会議」の皆さんや高知市の職員の皆さんと懇親会をもった。さすがは、「いごっそう」の土地柄で80うん才の会長さんはじめ、皆相当歳をめされた方が多かったが、酒の一升や二升はペロリと飲みほされると聞いて一同ビックリしたものである。

後で、高知市の職員の方の話しをきいたが、「歳をめされているが、大変熱心な方ばかりで結構であるが、後継者がいなくて将来が心配だ。」とのことだった。

次の日は生態系保護協会の案内により、「高知メダカトラストパーク」「日高村グラウンドワーク」を見学した。

「高知メダカトラストパーク」は都市のど真中にあり、広場の中で、メダカを飼育したり、手作りの遊び道具で子供達が大変喜んで遊んでいるそうだ。この広場は地価数億円もする土地を地主が家族の反対を押し切って、子供達の情操教育に役立つならと無償で貸していただいているという。このような人がいて辛うじて地域の環境が保たれているのだとつくづく感じた。

これまで行政主導で進められてきた環境改善対策は人、金、手法等でそのハードルをクリアする為に紆余曲折すると予想される。その解決の一策としてこれからは、企業・行政・住民が一体となって環境問題に取り組むことが必要になってくると思う。

私は、この貴重な体験を踏まえ、微力ではあるが「米子地区環境問題を考える企業懇話会」の中で今後の環境問題に取り組んで行きたいと思う。

トリピークリーン大作戦開催

「皆生海岸美化清掃活動に参加して」

㈱マイカルサンイン　矢吹由紀子

「海の掃除に行こうよ。」と、軽い気持ちで向かった皆生海岸。トリピー大作戦と聞き何か勘違いしてついてきた7才の娘と一緒に、集合場所に並んでみれば、想像以上の運動のスケールに、思わず圧倒されてしまいました。

これだけ多くの人間が集まり、ビーチクリーンという一つの目的に向かって、力を合わせて動く。とても感動したのと同時に、幼い頃から親しんできた皆生の浜だけに、「私達がやらなくて誰がやるの！」と、使命感さえ感じました。

海岸には、空き缶をはじめ、お菓子の空き袋、トレーや煙草の吸いがら等、様々なゴミが捨てられていました。娘と二人で拾いながら、「どうしてゴミをこんな所に捨てるのかな。」という娘の問いに、「困ったもんだよねえ。」としか、答えることができませんでした。海に限らず、山へ行っても、道を歩いていても、ポイ捨てゴミの姿は、悲しいかな目にとびこんできます。「ちょっと待って！私達の鳥取は、こんなはずじゃあないよね。」と、思わず叫びたくなりますよね。

世界的に環境問題が騒がれ、リサイクルや環境に対するやさしさに取り組んだ品物が注目されている反面、環境に対する最低限のマナーを忘れている人間が、まだまだ、私達のまわりにはたくさんいるようです。次の世代に、そしてまた次の世代に、環境に対するマナーの大切さを伝えていきたい。そんなことを考えさせられた一日でした。

「皆生海岸美化清掃活動に参加して」

高島屋米子店　中井　智美

私は以前にも、皆生海岸の清掃ボランティアに参加したことがありますが、その時と同様、今回もあちこちにたくさんのゴミが落ちていて、とても残念に思いました。特に目立ったのは、煙草の吸殻や空カン、空ビン、発泡スチロール等々。しかし作業終了後、あたりを見ると、見違えるほどきれいになっていて、充分満足感を得ることができました。

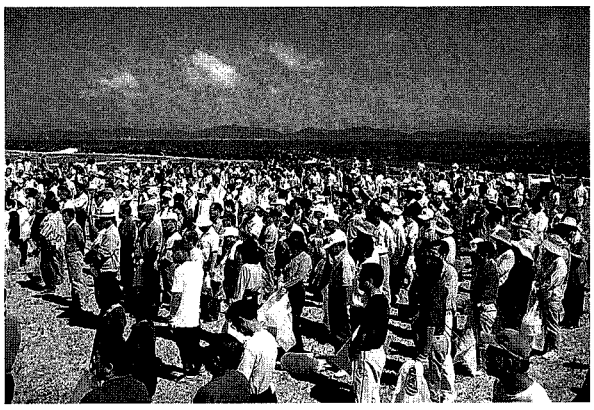
今回のボランティアに参加して、あらためてゴミの多さに驚かされました。皆生海岸に限らず、街中の路上や公園などにも、空カンや煙草の吸殻がたくさん落ちています。自分たちの住む街をもっともっときれいにするために、一人一人がそういったゴミを出さないように、日頃から心掛けることが必要ではないでしょうか。また機会があれば、このようなボランティアに参加し、きれいな街づくりに協力していきたいと思います。

中には花火のゴミもけっこうあって、「ちゃんと拾って帰ろうよ」と思いました。せっかくのきれいな海がだいなしです。

でもゴミを出すという事は、どこかでそれを片付けている人がいるという事ですね。自分も気をつけなくてはと思いました。

終わってから、みんなでジュースで乾杯しました。海岸もスッキリ、気分もスッキリです。

また来年も参加したいです。



「けはははだが前て大三永」

永瀬石油株式会社
三柳SS副主任　田仲　理恵

去る6月29日〈トリピークリーン大作戦〉で皆生海岸の清掃に参加させて頂きました。

前日の土曜日は台風8号の上陸で雨風がひどく、「明日の清掃はどうなるんだろう？」と心配していましたが、当日はうって変わっての大快晴でした。当日はみんなで手分けをして約1時間半かけて海岸のゴミを拾ってまわりました。

米子地区環境問題を考える
企業懇話会会員募集のお知らせ

私達企業懇話会は、新しい会員を随時募集しています。

●現在、米子市内に事業所があって環境保護に取り組んでおられるか、今後環境保護運動に取り組みたいとお考えの企業または組合でしたら、どなたでも入会していただけます。

●企業の規模、人員には規制がありません。

〈事務局〉
〒六八九-三三五　米子市吉岡三七三番地
王子製紙株式会社米子工場環境管理室
上級技師　向井哲朗まで
電　話　〇八五九-二七-四九八六
FAX　〇八五九-二七-九九九〇